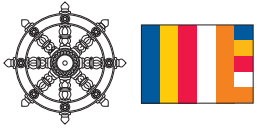


ZENBUTSU

全仏



No.
575

仏暦2554年12月
[2011年]



インド ブッダガヤ 仏塔の間でおつとめする僧侶たち — 撮影 仏像ガール®

目次	原発事故により福島県内の菩提寺と連絡がとれない皆様へ	2
	第3回東日本大震災支援検討会議開催	3
	加盟団体をゆく 第46回 念法眞教	4
	僧侶を派遣する業者へ要請書を提出	7
	第58回全日本仏教婦人連盟大会開催	8
	東日本大震災合同慰霊祭開催	9
	平成23年度加盟団体代表者会議開催	9
	第57回長野県仏教徒佐久大会開催	10
	台風12号により被害に見舞われた 和歌山県・三重県・奈良県に義捐金を寄託	12

原発事故により福島県内の菩提寺と連絡がとれない皆様へ

本会加盟団体である、福島県仏教会の要請により、東京電力福島第一原子力発電所事故により避難を余儀なくされている地域住民の方々と寺院との連絡を取り次ぐことを目的として、左記の概要にて、集中的にお取次ぎ業務を行います。

■期間

平成二十三年
十二月十二日(月)～十六日(金)
午前十時～午後五時

■お取次ぎ可能寺院

本会HPにてご確認ください。
※HP掲載以外の寺院につきましては、お取次ぎできかねます。

■お取次ぎの流れ

一. 申込用紙を作成し、FAXにてご送付ください

①本会HPより申込用紙をダウンロードし、必要事項を明記の上、FAX(〇三―五四〇五―七六七七)にてお申込みください。

②申込用紙内は全て必須項目です。記入欄へは明瞭に記載ください。

なお、記載事項が不明瞭の場合はお取次ぎができない場合がございます。予めご了承ください。

③掲載寺院を閲覧できない、FAXが使用できない、または申込用紙をダウンロードできない場合は、お取次ぎ特設ダイヤル(〇三―五四〇五―七六七六)までご連絡ください。口頭にて受付いたします(電話による受付は、多少のお時間を頂戴しますのでご了承ください)

二. いただいた申込用紙をお取次ぎ希望寺院へ転送いたします

①転送完了後、個人情報保護の観点より申込用紙は直ちに破棄いたします。

②申込用紙内の個人情報、本件以外の用途では使用致しません。

③申込用紙は破棄するため、本会へ申込用紙送付後のご対応につきましては、改めて手続きが必

要になる場合がございます。予めご了承ください。

三. 寺院より皆様へご連絡いたします

①お取次ぎした寺院より、申込用紙記載の連絡先へお電話いたします。

②ご連絡には多少のお時間をいただく場合がございます。予めご了承ください。

※お取次ぎ後のトラブルに關しては、本会は一切責任を負いかねます。

◇本件に関するお問い合わせ

全日本仏教会広報文化部

TEL:

〇三―三四三七―九二七五

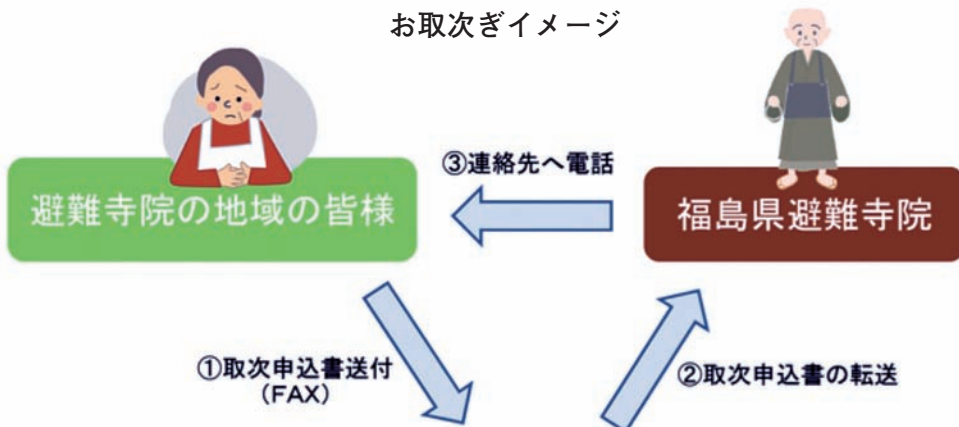
メールアドレス

kouho@jbf.ne.jp

全日本仏教会HP

<http://www.jbfne.jp/>

お取次ぎイメージ



お取次ぎ特設ダイヤル
TEL: 03-5405-7676
(なむなむ)

申込用紙送付先番号
FAX: 03-5405-7677



※イラストは一例です。

第三回東日本大震災支援検討会議開催

第三回東日本大震災支援検討会議を、十一月二日午前十時より委員全員出席のもと、本会会議室にて開催した。

開会の辞、三帰依文唱和の後、奈良慈徹総務部長が資料に基づき、前回の支援検討委員会です承された事項についての確認と、それらが現在までの間にどのように実行されているかについて説明をおこなった。その中、「第二次支援活動について、被災地仏教会の所在確認と連絡手段の確立、さらに、公益事業に即した内容の活動について支援金を拠出していく。また、報告書を提出いただき、それを公表する」件につき、加久保範祐社会人権部長が、被災地仏教会を調査した結果、多くの仏教会が活動していないと判明し、支援内容を見直さざるを得ない状況になったことを説明した。上記の説明をふまえ、事務総局より三つの提案が示され、委員の間で検討された。協議の結果以下の事項が本会の今後の支援方針として確認された。

〔支援方針確認事項〕

(一) 太平洋沿岸部の被災四十四市町村自治体の被災寺院に対し、「被

害状況の報告」や「今後の復興活性化について」等の先方に負担のかからない程度で情報をいただき、お見舞金の意味を込めて十万円を支援する。

(二) 東京電力福島第一原子力発電所事故に関し、対策の会の開催や離散檀信徒との連絡に当たっている福島県仏教会に対し、百万円を速やかに支援する。

(三) 現在も継続して支援活動を行っている仏教系の団体へ支援を行なう。また、被災地在住の方が行う復興活動等に対しても支援を行なう。

(四) 福島県仏教会より本会に依頼されている、東京電力福島第一原子力発電所事故による避難に伴い離散した住職と檀信徒をつなぐ支援活動を、救援基金に予算化して行う。

その他、戸松事務総長より以下の予定の報告があった。

(一) 原子力発電所事故に対し、本会として意思を表明する。

(二) 来年の一周忌について、本会は後方支援に徹する。また、四十日忌のような映像による会長メッセージを配信する。

タイ大洪水支援のため、WFB人道支援基金に百万円を寄託

タイ各地で生じている大規模な洪水の被害に対する支援のため、本会は十月十九日に常設しており、まず救援基金より百万円をWFB（世界仏教徒連盟）人道支援基金に寄託致しました。

本会が加盟しているWFBは本部がタイのバンコクにあり、救援活動の報告が寄せられましたので掲載させて頂きます。

タイ大洪水の

危機的状況について

タイ国土の三分の一を飲み込んだ未曾有の大洪水により多くの人々が苦しんでいます。この事態に、真心のご支援ご寄付をいただいた皆様に深く感謝申し上げます。最も苦しんでいる方々のところへ、できる限り迅速かつ的確に支援が届くようにいたします。

現在の活動は以下のとおりです。
 ・WFB本部の人道支援活動センターは直接的な支援活動の他、すべての救援団体及びタイ王国軍と協力・連携しながら活動しています。また、このセンターは地元地域の寄付の受付窓口にもなっています。

・WFB本部スタッフとボランティアによって五千食の乾燥食品パックと日用品（簡易トイレ、医薬品）を集め、配給しました。

・ワット・プラ・ラーマ九世（寺院）、ワット・プラ・マハタート（寺院）、タイ王国軍と協力し、「ワールドブデイズキッチン」がバンコクのバーンケーン区に設置されました。ここでは毎日一万食が作られています。

・十人〜十二人乗りのボートを五百艘購入し、最も必要とするところへ提供する予定です。

・医薬品・応急手当セットを一万セット配給しています。

以上は人命に関わる応急支援、つまり第一段階であり、第二段階として被災地の復興支援、第三段階としてすべての不可欠な設備が回復するまでの長期的支援が引き続き求められます。この危機の後には、多くの人々が家と仕事を失うこととなり、それらが得られるようになるまで長期にわたる支援が必要となるでしょう。

WFB（世界仏教徒連盟）事務総長
 パロップ・タイアリー

加盟団体をゆく

《第四十六回》念法眞教

今回は念法眞教の総本山金剛寺をお訪ねし、桶屋良祐教務総長にお話を伺いました。総本山金剛寺はホームページ上からも伽藍ギャラリーを拝観できるようになっています。



桶屋良祐教務総長

―貴教団で継続的に、もしくは最近力を入れている活動に関してお聞かせ下さい

念法眞教の立教の目的は、「現世界極楽浄土建設」です。現世に極楽浄土を建設すべく信徒の方々の悩みの解決に尽力しています。

当教団は、かつては本山と末寺が別々に運営を行う単立支院制度を採用しておりました。しかし、教団の理想を追求するには、この制度では運営が苦しい寺院は充分に布教が行えないという問題に直面しました。

そこで第二代小倉靈現燈主のご指導で全ての寺院を本末一体として運営する体制に改革しました。

一般的に住職と言われるお寺の管理者は当教団の場合、全て本山の職員であり、本山から派遣する形になります。

また、管理者の生活、及び支院（寺院）の運営を本山が全て保障致します。例えば、土地建物の用意及び維持管理、日々の布教に必要な費用等を全て本山から支給します。これにより、管理者は布教活動や人々の救済に専念できます。法要や写経などの供養金は全て本山に一元化されており、管理者の生活に必要な費用は本山の仏性から授かります。ですから、透明性が高く、税務的な批判を受けることもありません。

管理者は、二十四時間体制で信徒さんの相談に乗り、心のケアを行い、信徒さんを幸せに導くよう指導を行っています。管理者は布教に命をかける姿勢を日々の生活に実践していかなくてはならないと考えており、今後も指導を行っていきます。

教団の活動としては年代ごとのグループによる教えの実践に特に力を入れています。例えば青年会や子供会等細かなグループ分けを行い、各年代で教えを聞いて頂くよう心がけております。

開祖様がお説き下さった仏様の教えは命ある限り聞かせて頂くべき尊いものだと思いますし、各年代にあった教えをお説き下さっていると考えています。小学生には小学生に必要な教え、中学生には中学生に必要な教えがあると思います。

また、信徒さんから「仏様の教えはいつから聞いたらよいのか」という質問を受けたり、葬儀等の場で仏教にはじめて触れるという方がいらつしやいます。

仏様の教えは、困窮して必要になつてから聞くよりも、一歩先取りして聞いておくのが非常に重要であると考えています。不安なく次の時代を生きていけるよう、信徒さんに必要な教団でありつづける為の努力を今後も続けていきたいと考えております。

―東日本大震災への支援について

震災発生直後の三月十二日に災害対策室を設置し、被災状況の把握及び援助活動を展開しました。

一例としてはお米千キロを急送し、現地市町村への義援金寄託、慰霊のお勤めも行いました。

また、「関西仏教懇話会救援隊」へ救援物資や義援金を寄託するとともに、天台宗や全日本仏教会等へ義援金を寄託させて頂き、被災地への支援を行いました。

震災に際して各種行事を中止する動きも広がりましたが、当教団では行事の中止は行わず、行事中に慰霊法要や義援金募集の呼びかけを行いました。今後も被災地への物心両面の支援を継続していこうと考えております。

―現代社会に対する思いをお聞かせ下さい

教育や親子の間において様々な問題が発生しており、それが全ての問題の一因になってしまっていると思います。

子どもは親の姿を見て育つものですが、親は家計を支えなくてはなりません。なかなか満足な家庭教育が出来ないケースもごさいます。一方で、学校教育は本来は知

識や学問を教える場所ですが、時としてそうした家庭教育の不足を補わなくてはならないケースも出てくると思います。

学校教育と家庭教育はセットで、よりよい方向に向かわなければ問題の解決は困難です。親は学校でしっかり教育をと言いつつ、学校は家庭教育をしっかりとと言います。このような責任のなすり合いをやめ、建設的な方向に進むべく努力をしてゆく必要があると思います。

また、学校教育で子どもに悪影響を与えるものに対してより強いアプローチをすべきであると考えております。インターネットの有害サイトやポルノコミックから青少年を守る為には公教育でそうした事を教えるべきだと思えます。

―仏教界に対する思いをお聞かせ下さい

日本の歴史は宗教家が時代を牽引した部分は非常に大きかったと思います。寺子屋制度で学びを与えてきたという経緯もあります。

現代では、法事や葬儀ではじめ

て僧侶や仏教に接するという方も多く、これが寺院と一般の方々との距離感を作ってしまったのではないかと考えています。

一般の人々が求めている普遍的な命題に少しでも答えられる、人々に求められる宗教家がこれからより必要になってきます。そうした宗教家になるには、特定宗派の教えだけを学んだり説いたりす



念法真教総本山金剛寺

るのではなく、宗派の枠を越えて深く学ぶ事が肝要です。人々の想いや悲しみを真摯に受け止め、生き方を学ぶ機会を多く提供できる宗教家を育成することこそ、現在の仏教界に一番必要な事ではないかと思えます。

―全日本仏教会に対するご要望やご意見をお聞かせ下さい

全日本仏教会は参画している各加盟団体のリーダーとしての役割、また国外の仏教並びに諸宗教から見た日本仏教の代表団体として、その重要性や役割は今後さらに高まっていくと思います。

世界平和の実現の為に、今後ますます宗教界・仏教界の連携は必要であり、当教団もできるかぎりの協力を行っていききたいと思います。

念法真教ホームページ

<http://www.nenpoushinkyoku.jp>

真言宗智山派総本山智積院
寺田信秀管長が晋山

十月十一日、京都市東山区の総本山智積院において、総本山智積院第七十世ならびに真言宗智山派管長大僧正寺田信秀猊下の晋山傳燈奉告法要が営まれ、本会より有田恵宗理事長、加久保範祐社会人権部長が参列し、当日は約四百名が参集した。

大玄関から輿に乗って境内をお練りした後、金堂に入った寺田管長は、ご寶前で傳燈奉告文を奉読。東日本大震災の被災者について宗門をあげて復興に取り組むことを誓った。

式典では、南揚道・総本山仁和寺門跡ほか祝辞を述べた。

午後一時から会場をハイアットリージェンシー京都に移し、祝賀会が開宴参加者は和やかに交流を深め、寺田猊下への祝意を表した。



輿に乗って境内をお練りする寺田信秀管長

真言宗醍醐派総本山醍醐寺
仲田順和座主が晋山

十月二十二日、仲田順和・真言宗醍醐派総本山醍醐寺第百三世座主（同派管長）の晋山式が京都市伏見区の同寺で執り行われ、本会より大矢實圓副会長が参列した。仲田座主らは三宝院の唐門から仁王門を通って金堂へお練り。金堂で仲田座主導師のもと法要が厳修された。

南揚道・総本山仁和寺門跡が祝辞を述べた後、仲田座主は、様々な恩師の導きなどによる今までの歩みを述べて謝意を示し、今後の抱負を話した。

晋山式には宗内僧侶・檀信徒や宗教界来賓を含め約八百人が随喜・参列。晋山式の終了後、靈宝館にて祝賀会が開催された。



お練りして金堂に向かう仲田順和管長

第四十五回仏教伝道文化賞贈呈式

十月十二日、財団法人仏教伝道協会が仏教伝道文化に貢献された方を表彰する第四十五回仏教伝道文化賞贈呈式が仏教伝道センター（東京都港区）にて行われ、本会より有田恵宗理事長、戸松義晴事務総長、奈良慈徹総務部長、東田樹治総務部次長が出席した。

今回は信楽峻磨師（元龍谷大学学長、龍谷大学名誉教授）、A・T・アリヤラトネ氏（サルボダヤ・シユラマダーナ・ムーヴメント創設者）に仏教伝道文化賞が贈呈され、

賞状と賞金三百万円が授与された。信楽師は大乗仏教の原理に基づいた親鸞思想を考察し、宗学を超えた真宗教学の研究が評価された事に謝意を示し、親鸞の教えは仏教と社会的営みを分けない一元論であることを述べた。

アリヤラトネ氏は、スリランカ元大統領のジュニアス・R・ジャヤワルダナ氏（J. R. Jayewardene）が第十七回仏教伝道文化賞功労賞を授賞したことに触れ、仏教伝道

協会の世界的な功績を讃えると共に謝意を示した。賞金はスリランカ古代寺院で仏法伝道堂とパゴダを建築する為に寄付される。

出席者を代表し福田康夫元総理大臣が挨拶し、父の代からのスリランカとの交流を振り返った。ほか、池田行信師（浄土真宗本願寺派宗会議員）、ワサンダ・ガラナード氏（スリランカ国駐日大使）がそれぞれ祝辞を述べた。当日は百人以上が参集し、両受賞者の功績を讃えた。



受賞を記念しての撮影
(左より信楽峻磨師、A・T・アリヤラトネ氏、福山諦法仏教伝道協会理事長、沼田智秀仏教伝道協会会長)

僧侶を派遣している業者に対し、 料金体系の表示の削除を要請

本会は、平成二十三年三月七日、四月二十八日、さらには八月十八日に、ウェブサイト「葬儀本.com」を運営している株式会社ユニクエストオンラインに対し、全国統一のお布施の金額及び葬送儀式の内容に沿ったプランの価格一覧表の削除を、書面及び電話による口頭で要請いたしました。

また、九月十九日には株式会社おぼろさんどつとこむに対し、同社ウェブサイト上に記載されているすべての法要料金（お布施）及び料金体系の表示の削除を、書面により要請いたしました。

葬儀あるいは年回忌法要は、各伝統仏教宗派の教義や歴史的経緯を踏まえて今日に至っております。また葬送儀礼において、一大事とされる授戒の意義や作法等については、各伝統仏教宗派独自の伝統や各地方の慣習などがあり、その

ような歴史を無視して料金体系を表示することは、仏教の宗教性や地域性を逸脱した商行為と考えます。

葬儀は故人が仏弟子となる深い法儀と、故人を縁として残された者たちが、眼前の人の生死を通して、仏法に出遭う厳粛な儀礼であり、お布施もまた仏教的行為の一端であります。たとえ社会の風潮が「商品化、価格化」のような傾向になり、お布施が金銭化されたとしても、喜捨の精神に反するお布施の金額の価格一覧表示を許容することはできません。

以上のような考えから、本会はお布施の金額の価格一覧表示の削除要請を行いました。

提出した要請書の全文は、本会ホームページよりご覧頂けます。
<http://www.jifne.jp>

書籍紹介 「寄り添いの死生学」

浄土宗総合研究所の「Ojo & Death (往生と死)」プロジェクトチームが二年間にわたり、「往生と死」について、浄土教、日本仏教が現代社会にどのような意味を持ち、関わっていくかを研究した成果として二〇〇九年『Never Die Alone』が浄土宗から刊行されましたが、この度その日本語版が出版されました。

死という難しいテーマにどう寄り添っていくのか、その考え方がわかりやすく、丁寧に解説されています。

法然上人の往生観をはじめ、英国、タイなどの研究者が講演した記録等を収録。外国人の視点から「浄土」の魅力を語っています。

著者には浄土宗総合研究所客員研究員として様々な英訳を手がけるマーク・L・ブラム、慶應義塾大学医学部医学教育統括センター講

師も勤める戸松義晴全日本仏教会事務総長、国際的な仏教徒のネットワーク組織である「International Network of Engaged Buddhists (INEB)」の実行委員も務めるジョナサン・ワッツ、文部科学省の事業に携わるカール・ベッカー京都大学大学院教授、曹洞宗の僧侶となり阿弥陀仏を信仰するイギリスNPO団体の代表を務めるデイビッド・ブレイジャー、ジョン・マッカーネル等様々な分野の専門家が集結。

発行 浄土宗 全二二四ページ
定価 一、五七五円（税込）
※購入は浄土宗出版ホームページからも行えます

<http://press.jodo.or.jp/>



第四十六回大阪府佛教徒大会開催

平成二十三年十一月八日、午後三時三十分より、標記大会がホテル日航大阪において大阪府佛教会（井桁雄弘会長）と大阪府佛教青年会の主催により開催された。

開会冒頭、「東日本大震災物故者追悼並びに復興大祈願法要」が執り行われ、井桁会長は、東日本大震災により被災された方々の御霊だけではなく、関西地方（主に和歌山県・奈良県・三重県）に甚大な被害を齎した台風十二号により被害に遭われた方々の御霊も共に供養すると同時に、各被災地の一日も早い復興を祈願するものであると表白文において述べた。

法要中、会場内では被災された多くの方々の想い、法要を勤めた僧侶らとともに、読経を行う方や深々と頭を垂れ合掌する参加者も見られた。

法要終了後、大阪府佛教青年会前会長村山博雅師（全日本仏教青年会理事長）により、東日本大震災現状報告として、同青年会の活動である托鉢や四月二十六日に行った奈良東大寺での千僧法要について、また、所属する全日本佛教青年会の被災地支援活動を時系列で詳細に説明を行った。

式典においては、平松邦夫大阪市長が駆けつけ、参加者へ挨拶。続いて有田惠宗本会理事長と小川保之氏大阪府副知事の祝辞が披露された。また、井桁会長も壇上に立ち、長きに亘り大阪府佛教会の会長を務め、本年ご勇退された増田貞圓前会長の功績を称える挨拶を行い、会場からは大きな拍手が沸き起こり、参加されていた増田前会長も参加者へ手を振って応えた。

その後壇上では、住職在職三十年を迎える同会所属僧侶二十二名の表彰が行われた。

式典終了後、大阪大学総長である平野俊夫氏により『いのちの大切さ』と題された記念講演が開催され、今この瞬間を生きている奇跡を大事にするべきだと、命の大切さを訴え、参加者の多くが感銘を受けた。



第五十八回全日本仏教婦人連盟大会開催

十月十八日、ホテルオークラ東京にて、第五十八回社団法人全日本仏教婦人連盟大会が開催され、約百五十名が参集した。本会からは戸松義晴事務総長が出席した。

第一部では、浄土宗大本山善光寺大本願法主の鷹司誓玉名誉会長を導師に、全日本仏教尼僧法団の有志を式衆とした東日本大震災犠牲者並びに全日本仏教婦人連盟物故者追善供養法要が厳修された。

法要終了後、鷹司法主の垂示では東日本大震災について触れ「ただただ念仏して合掌するほかなかった。私たちは震災で人と人との絆や助け合いの大切さを学び、物や金銭のむなしさを知った」と、全ての人々の心と共に平和世界を建立したいと決意を述べた。

大賀美都子副会長の挨拶ののち、来賓挨拶として戸松義晴本会事務総長、里見法雄浄土宗事務総長、桶屋良祐念法眞教務総長が祝辞を述べた。

次いで会員の写経活動により集められた百五十万円が英良智理事より正本乗光国際仏教興隆協会事務総長に贈られた。インドのブツダガヤにある印度山日本寺での無



東日本大震災犠牲者追善供養の法要が厳修された

料診療所運営費に充てられる。挨拶に立った新任の末廣久美理事長は「さらなる公益性を求め、ためにネットワークづくりを進め、研修を重ねて社会のために役立ちたい」と抱負を述べた。

また、当日会場で集めた「心の募金」では、集まった浄財・募金の十五万八千円と会員手編みのソックス二百足が被災地NGO協働センターに贈られた。

第二部の清興では津軽三味線と太鼓の民謡ユニット「つるとかめ」が登場し、震災の被災地である宮城県石巻の大漁歌「斎太郎節」などが披露された。その後、和やかな雰囲気の中懇親会が開催された。

東日本大震災 犠牲者合同慰霊祭開催

十一月五日、全日本葬祭業協同組合連合会（以下全葬連）主催、全日本仏教会及び東京都仏教連合会後援による東日本大震災犠牲者合同慰霊祭が、東京都港区の浄土宗大本山増上寺光撰殿にて執り行われた。遺族をはじめ一般来場者を含む約千人が参列し、犠牲者に祈りを捧げた。

フリーアナウンサーの宮川俊二氏が司会を務め開式された慰霊祭は、全葬連会長松井昭憲氏による追悼の挨拶後、本会有田恵宗理事長が「未曾有の大震災で亡くなられた多くの人々の御霊が安らかならんことを願います」と弔辞を述べた。

法要には、本会事務総局及び東京都仏教連合会代表ら二十人余りが随喜し、東京都仏教連合会会長の丹羽慈祥師を導師に、同会長宗派の臨済宗南禅寺派僧侶が出仕した。震災発生時刻である午後二時四十六分に参列者全員による黙とうが捧げられた。

続いて、遺族代表として宮城県石巻市在住の太田かおり氏と福島県いわき市在住の金成晃子氏が鎮

魂の言葉を述べられた。

太田氏は「震災の直後まで生きていた父がもういないと思うと毎日が悲しかった。けれど多くの人が生きる勇気を与えてくれた。これからは生かされたものとして復興に努めたい」と述べた。

金成氏は「高台に走り、後ろを振り返ったその様子はまさに地獄絵図でした。海とともに生活をしてきて、海に命を奪われたことが悲しくてならない」と語った。

会場には国会議員や各団体代表が参列し、岩手県・宮城県・千葉県各の各知事からの弔電も読み上げられた。受付前通路には主催・後援団体の被災地支援活動がパネルで展示され、仏教界の活動が紹介された。



午後2時46分に黙とうする参列者

平成二十三年度加盟団体代表者会議開催 被災地の視察・震災後の現状を報告

十一月十七日及び十八日、福島県郡山市で加盟団体代表者会議が開催された。今回は被災地の一つである相馬市の視察も行われ、会議では、東日本大震災や原発事故の影響の中での現状について報告が行われた。

初日、郡山市から相馬市までバスで移動し、相馬市役所の青田稔民生部長による案内のもと、東日本大震災で津波被害を受けた松川浦漁港、原釜・磯部地区を中心視察。瓦礫が山積みする中をバスで移動。沿岸部においては、現在も地盤沈下の影響で、満潮時には海水が生活道路を越えて流入してくるという。

震災当時、避難を呼びかける消防団員を含めた沿岸部に住む多数の市民が犠牲になったことや、多くの震災孤児に対し、現在も各国より支援が寄せられていることが説明された。また、多くの犠牲者が出た住宅地区では、加盟団体の参加者全員で手を合わせ読経し、哀悼の意を表した。

翌日十八日、郡山市内の「あおき郡山斎苑」を会場に平成二十三年度加盟団体代表者会議を開催。福島第一原子力発電所から三・八kmに位置する大熊町・楢葉町の半谷隆信住職が「原子力発電所事故の今とこれから」と題して、警戒区域内の現状を説明。避難を余儀なくされている寺院の現状や寺院復興に関する不安などについて語った。

続いて、福島県仏教会の三村真城会長は避難寺院への支援、課題などについてお話をいただき、地域仏教会の必要性が強調された。また、現在も県下寺院のうち三分の一が同県仏教会に未加盟であることから、今後各宗派からも県仏教会への参画を促してほしい旨

要望が出された。

次に、来年四月より公益財団法人として事業が行われるにあたり、事務局から現行の寄付行為と移行後の定款との比較を提示し、移行後の組織の立付けについて配布資料を基に説明。その中で新設される「代議員会議」は、本会の事業施策や推進に関する協議、或いは加盟団体からの意見聴衆・集約さらには提言など、本会の「柱」の会議となることが説明された。また、代議員会議と理事会について、代議員会議から上程された案件が理事会において検討、或いは継続審議になれば理事会へ付託する等の後、本会事業に反映していく階梯など、二つの会議の関係性が説明された。

次に、代議員会議規程案について、代表者から加盟宗派代議員会議規程案では、評議員就任宗派を除くと明記されていることについて事務総局に説明が求められた。評議員・理事就任宗派以外のご宗派からの意見集約を図る為、この案を提示した。是非ご理解頂きたい旨、事務総局から説明がなされた。尚、今会議で協議した内容を今一度精査・検討して、来年三月二十八日に開催される理事会・評議員会・参事会に於いて協議及び了承を頂き、第三十期から運用する予定。



加盟団体代表者会議の様子

第五十七回長野県仏教徒佐久大会開催

標記大会が十一月十二日(土)午後一時から長野県佐久市コスモホールで開催され、大会テーマ「心の燈(こころのともしび)―小さな光から大きな光へ―」のもと、僧侶・檀信徒・来賓関係者合わせて約四百名が集まった。

長野県仏教会は県内を四つに区切り、毎年輪番制で仏教徒大会を開催している。今年も佐久仏教会が中心となり佐久仏教婦人会、近隣地域仏教会ほかの協力を得て開催された。

午後一時の開会に先立ち、重要無形文化財「跡部踊り念仏」が披露された。この起源は鎌倉時代に時宗の開祖一遍上人が善光寺に参詣した帰りに現在の佐久市に寄り、上人が音頭をとり弟子と民衆が念仏を唱えて跳ね踊ったのが最初といわれている。この跡部踊り念仏は八人一組で構成され、現在は浄土宗の西方寺で毎月一回定例会として公開されている。

午後一時に第一部「法要」が開式。長野県仏教会会長善光寺大勧進小松玄澄貫主導師のもと県内仏教会僧侶職衆により、三帰依文と般若心経をホール内全員でお唱えし、特に東日本大震災の犠牲になられた方々に深い哀悼の意を表した。

第二部「式典」では、佐久仏教会会長白井正幸師の挨拶から始まり、全日本仏教会と佐久市長が来賓の挨拶。また県仏教会運営に永年尽力された地域仏教会役員に対して感謝状が授与された。

第三部に入る前に、飯田長姫高校吹奏楽部(地区優勝校)のステージドリルが披露され、一条乱れぬ部員の動きに、場内から大きな拍手が沸き起こった。そしてステージ入れ替え後、滝田栄氏の記念講演が始まった。

滝田氏は自身の生い立ちから話始め、「最近『友垣』という言葉が無くなってしまった。モノは豊かになったが、深い友情や心情で結ばれていた垣根の結び目がほぐけてバラバラになってしまったような気がする。『レ・ミゼラブル』が終わって体力の限界を感じ、本当はどこかの寺に入って修行したかったのだが、マスコミに追われるのが嫌でインドに渡った。

インドに行けば、遠い昔に釈尊が新しい宗教(仏教)を作れた背景が解るのではと、ヒンズー教を学びに行った。またその頃から仏像彫りに夢中になり始め、最近では観音菩薩を彫った。薬師寺の東京別院に一カ月間お飾りいただき、

現在はその観音さまの前で会議ができる建物を被災地に作りたく募金活動を始めている。仏さまの前で話し合えば、皆は嘘をつけない地域再生をかけた新しいコミュニティづくりの為、供養と未来の為の建物を作り、不滅の安心と幸福の街をみんなで作っていきたい。(要旨抜粋)と語った。

第四部「閉会式」では、佐久仏教婦人会による歌(われらは仏のこどもなり)と、大会宣言文の発表、次に次期開催仏教会会長挨拶。最後に佐久仏教会副会長北川正明師の謝辞で閉会となった。

尚、今回の第五十八回長野県仏教徒大会は信濃中央仏教会が中心となり、平成二十四年六月二十九日(金)長野県松本文化会館で開催される。



重要無形文化財「跡部踊り念仏」が披露された

本会后援 東日本大震災復興支援 ダライ・ラマ十四世法王講演

十一月五日、午前十時半から石巻市西光寺と午後二時から仙台市の孝勝寺を会場に東日本大震災で被災された方々を対象として、ダライ・ラマ法王が講演した。主催団体の(社)仙台仏教会(白石浩哉会長)は、このたびの大震災で被災された檀信徒のこころを癒したいとの取り組みから企画された。当日は、天気に恵まれ、仙台会場の堂内に七百人と堂外に八百人の席を用意。堂外には、講演の模様をモニターで視聴できるよう機材を設置。同仏教会の都築幸三事務局長は、ダライ・ラマ法王の招請から警備まで大変な状況だったが、多くの被災者の皆さんに喜んで頂けたと語った。



講演を行う
ダライ・ラマ十四世

事務総局録事

十月(十六日～三十一日)

十七日▼局内会議

▼仏教伝道協会古澤氏、木島氏
来局

▼新日本宗教団体連合会結成六十周年記念集会・祝賀会出席
(渋谷公会堂)

▼TIS三上氏来局

十八日▼第五十八回(社)全日本仏教婦人連盟大会(ホテルオークラ東京)出席

▼警察庁訪問

▼劇団わらび座来局

▼大和証券石田氏、佐藤氏来局

十九日▼BNN企画委員会出席(慈母会館)

▼損保ジャパン来局

▼第百六十三回宗教法人審議会出席

二十一日▼オメガコム五十嵐氏来局

▼ペマ・ギヤルポ氏来局

二十二日▼黄檗宗萬福寺開創三百五十年記念慶讃事業出席(萬福寺)

▼真言宗醍醐派仲田管長晋山式出席(醍醐寺)

▼平成二十三年度 男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラムワークショップ「私と釈迦内枢

唄」出席(武蔵嵐山)
二十四日▼和歌山県仏教会前田会長と面談

▼奈良県へ台風災害義援金を手交(奈良県庁)

▼日本郵便来局

二十五日▼朝日ビジネスソリューション来局

▼福島県仏教会三村会長来局
▼自由民主党曹団十月定例会出席(自由民主党本部)

二十六日▼第五十六回全葬連埼玉大会・懇親会出席(パレスホテル大宮)

二十七日▼「墓地・墓石に関する消費者意識調査」について申請状況報告と第三回委員会出席(日本石材産業協会事務所)

▼無料法律相談室

三十一日▼宗教教育推進委員会

十一月(一日～十五日)

一日▼民主党衆議院議員大西典考を励ます会参加(海運会館)

▼部落解放・人権政策確立要求中央実行委員会第二十九回拡大役員会出席(松本治一郎記念会館)

二日▼第三回東日本大震災支援検討会議

▼局内会議

四日▼日本宗教連盟「宗教法人と税務調査に関する調査研究」第二回研究会出席(本会会議室)

五日▼全日本葬祭業協同組合連合会主催東日本大震災犠牲者合同慰霊祭参列(増上寺光摂殿)

▼東日本大震災支援 グライ・ラム十四世来仙プロジェクト出席(仙台・孝勝寺)

▼劇団希望舞台玉井氏来局

八日▼第四十六回大阪府佛教徒会議出席(ホテル日航大阪)

九日▼部落解放研究第四十五回全国集会出席(岐阜県・で愛ドーム)

十日▼朝日ビジネスソリューション来局

十一日▼局内会議

▼長野県仏教会理事会・懇親会出席(佐久グランドホテル)

十二日▼第五十七回長野県仏教徒佐久大会出席(佐久市コスモホール)

十四日▼第三十二回韓日・日韓仏文化交流観門寺大会参加(至十七日)

▼総務財政審議会

▼第一回ビジョン策定委員会出席(日本石材産業協会事務所)

訂正

前号(五七四号)九頁、「加盟団体をゆく」第四十五回「華厳宗」に関して、一部誤りがありました。

○「辛苦同人復興同志」

○「辛苦同人復興同心」

関係各位に心よりお詫び申し上げます。

表紙写真紹介

「インドブッダガヤ

仏塔の間でおつとめする 僧侶たち」

十二月八日。日本ではお釈迦さまがお悟りをひらいた日として、いろんなお寺で「成道会」の法要が行われます。

いよいよ冬本番、という季節。お釈迦さまがお悟りをひらいた場所であるインド・ブッダガヤも賑わいを見せます。ヒマラヤ近くの北インドやチベットのお坊さまたちが、冬になると1〜2ヶ月ほどお山をおりて、この聖地でおつとめをされるのです。

お釈迦さまが瞑想されていた大きな菩提樹の木のまわりには、えんじ色の衣をまとったお坊さまでびっしりですし、境内のそこかしこにお坊さまの姿がみえます。仏塔と仏塔の間のような狭い隙間でも、板を置いて繰り返し五体投地をされていて、とても神聖な雰囲気です。

日本はもちろん、世界中に広がったお釈迦さまの教え。そのほじまりの場所であるブッダガヤは、お釈迦さまが包んでくださったているかのような温かい空気に満ちていました。

仏像ガール®

台風12号により被害に見舞われた 和歌山県・三重県・奈良県へ義捐金を寄託

9月3日に高知県東部に上陸した台風12号により、西日本から北日本にかけ、広い範囲で記録的な大雨となりました。この台風により、奈良県、和歌山県において河道閉塞が17箇所発生した他、孤立集落が発生するなど、紀伊半島を中心に甚大な被害がもたらされました。また、死者78名、行方不明者16名、全壊371棟、半壊2,907棟、床上浸水5,657棟、床下浸水19,152棟の人的・住家被害（11月2日17:00消防庁調べ）に見舞われました。本会は被害にあわれた和歌山県・三重県・奈良県へ本会救援基金より義捐金を寄託致しました。



平成23年10月5日、本会を代表して、和歌山県仏教会より和歌山県に対して、台風12号被害による復旧支援のため、和歌山県知事代理米山重明氏へ義捐金を手交致しました。

(左より)

和歌山県仏教会会長 前田定戒師
和歌山県知事代理 米山重明氏
和歌山県仏教会副会長 竹内龍雄師
和歌山県仏教会副会長 岩谷杖忍師
和歌山県仏教会副会長 西溪光照師



平成23年10月17日、本会を代表して、真宗高田派宗務総長青木眞曉師より三重県に対して、台風12号被害による復旧支援のため、三重県健康福祉部長山口和夫氏へ義捐金を手交致しました。

(左より)

真宗高田派宗務総長 青木眞曉師
三重県健康福祉部長 山口和夫氏



平成23年10月24日、本会を代表して、大矢實圓副会長より奈良県に対して、台風12号被害による復旧支援のため、奈良県健康福祉部長前田努氏へ義捐金を手交致しました。

(左より)

全日本仏教会 戸松義晴事務総長
全日本仏教会 大矢實圓副会長
奈良県健康福祉部長 前田努氏